# 14 期　関西ぶらり散策　　10 月 28 日

## おとぎ話と物語で巡る すみよっさん　（4 班担当）

住吉大社とその周辺を、その地に係る昔話や物語などを交えて「すみよし歴史案内人の会」の方から説明を受けながら巡りました。

行程：反橋前→三文字屋跡→一運寺→大海神社→種貸社→御文庫→本宮→西鶴碑→反橋→澪標図屏風碑→神馬舎



**反橋**：反橋は住吉大社の象徴で、通称で「太鼓橋」とも呼ばれる。橋の長さ約 20m、幅約 5m、中央部の高さ 4mです。
伊勢物語の中で在原業平が「雁鳴きて菊の花さく秋はあれど春のうみべにすみよしのはま」と詠んだことなどから当社を「和歌の神」ということになったといわれる。

**三文字屋跡**：大社の近くの警察署あたりに江戸時代にありにぎわった料亭で、「東海道中膝栗毛」にその様子が記載されているほか、坂本龍馬も宿泊したとされている。

**一運寺**：大社の少し北にある浄土宗の寺で、境内には赤穂義士四十七士の内、大石内蔵助・主税父子と寺坂吉右衛門の墓があるとのこと。

**大海神社**；住吉大社境内の北寄りに位置しており、本宮本殿と同様の住吉造、屋根は檜皮葺である。ここには神話の海幸彦・山幸彦にまつわる言い伝えや御伽草子・浦島太郎や竹取物語の言い伝えが残されている。



一運寺



大海神社

**種貸社**：子授け・商売の元手・知恵など「種」を授かるご利益で知られる末社。御伽草子の一寸法師の話のほか、山崎豊子や田辺聖子の作品にも取り入れられている。

**御文庫**：享保 8 年（1723 年）頃、大坂・京都・江戸の本屋仲間の寄進で建てられた土蔵造の書庫で、和書・漢籍など５万冊を収めており、大阪最古の図書館ともいわれている。



種貸社



種貸社・拝殿



御文庫

**本宮**：4 棟の本殿は神社建築史上最古の様式の一つといわれる檜皮葺、切妻造の「住吉造」で、いずれも国宝建造物に指定されている。祭神は古事記に記載されている住吉三神（底筒男命、中筒男命、表筒男命）と神功皇后で、紀貫之の土佐日記にもこの近くを通ったことが詠まれている。





**西鶴碑**：井原西鶴は世間胸算用や好色五人女などで大社のことを取り上げている。

**反橋碑**：「反り橋」という小説を書いた川端康成の碑がある。

**澪標図屏風碑**：源氏物語において光源氏が紫の上を伴って住吉詣でをする場面で、住吉大社を象徴する反橋（太鼓橋）や鳥居が描かれている。



井原西鶴碑



川端康成碑



澪標図屏風碑

以上のほか、住吉大社には源頼光たちが酒呑童子を倒す前に祈願したとの話も伝わっている。このように、住吉大社は古くから海の安全を守る神社として親しまれていたことから、多くの昔話から最近の小説まで取り入れられたことが、ガイドさんの分かりやすい説明もあり、よく理解できました。　以上